

平成22年度 千代田区委託 千代田学  
「千代田区における教育支援員の育成に関する実践研究」

平成23年3月

大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター

## 目 次

<b>1</b>	はじめに	3
<b>2</b>	事業の概要	4
<b>3</b>	事業の実施体制	6
<b>4</b>	実施した事業内容	7
	(1) 特別支援教育支援員育成プログラム	
	(2) 理科支援員育成プログラム	
	(3) 野外活動支援員育成プログラム	
<b>5</b>	受講者の評価	10
	(1) 特別支援教育支援員育成プログラム	
	(2) 理科支援員育成プログラム	
	(3) 野外活動支援員育成プログラム	
<b>6</b>	応募・受講者	21
<b>7</b>	評価委員による外部評価	21
	(1) 特別支援教育支援員育成プログラム	
	(2) 理科支援員育成プログラム	
	(3) 野外活動支援員育成プログラム	
<b>8</b>	本事業のまとめ（内部評価）	24
	(1) 特別支援教育補助員育成プログラム	
	(2) 理科支援員育成プログラム	
	(3) 野外活動支援員育成プログラム	
<b>9</b>	おわりに	31

## 1 はじめに

千鳥ヶ淵の桜がだんだんと芽ぶいてきました。千代田区と連携して進めてまいりました本委託事業も無事に1年目を終了することができました。

特別支援教育の支援員や理科支援員の育成プログラムは、昨年まで実施してきた文部科学省の学び直し事業からの継続であったので、プログラムの内容や方法はより深めることができましたと思います。しかし、野外活動支援員の育成プログラムは全く初めての試みであるために、取り組みも試行錯誤の連続になりました。川之上先生や加藤先生のお力にすがりながら、何とか1年目の取り組みを終えることができましたが、まだまだ検討すべき課題も残されていると思います。

本講座の修了者の中には、実際に千代田区の特別支援教育の補助員や理科教育の支援員として活動している人がほとんどです。その意味では、参加者の方々は、特別支援教育や理科教育の現場の様々な課題に直面しており、それをこの研修の中で語り合い学びを深めていけたと感じています。こうした機会を提供することの必要性を強く感じさせられました。

また、講座を実際に受講してくださった方々は、20代の若者から定年退職後の方までおり、千代田区内の先生方の学びたいという意欲の強さも感じることができました。

事務局を務めた児童臨床研究センターの本事業のスタッフは、私を含めてわずか4人での運営でした。そのために、大妻女子大学の関係者の方々をはじめ、千代田区教育委員会の関係者の方々のお力添えとご協力がなければ、この委託事業は進めていくことはできなかつたと存じます。その意味で、たくさんの方々の支えによって、本事業は成り立っていたといえます。こうして本委託事業を無事に終了することができましたことを多くの関係者の皆様方に、心より感謝とお礼を申し上げたいと存じます。

平成 23 年 3 月末日

大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター

所長 柴崎 正行

## 2 事業の概要

### (1) 事業の名称

千代田区における教育支援員の育成に関する実践研究

### (2) 事業の趣旨

千代田区においては、幼稚園・小学校における教育支援員が不足している状況である。そこで、大妻女子大学家政学部児童臨床研究センターと千代田区教育委員会が協力して、不足している特別支援教育支援員、理科教育支援員および野外活動支援員の教育支援員を育成するための有効な研修の在り方について、実践を基にしながら開発していくことを主旨としている。

また、当センターは、平成 19～21 年度の 3 年間にわたり文部科学省から委託を受け、「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業」を千代田区教育委員会と連携して実践してきた経緯がある。これらの蓄積を生かし、本年度は、現場の支援員、保育園・幼稚園・小学校から研修内容等についての調査を行い、試行的に育成を行うこととする。

なお、来年度はその成果を生かし、効果的な育成方法と在り方の開発に焦点を当てて研究を進めていく予定である。

### (3) 事業の内容

#### ① 特別支援教育支援員育成プログラム 募集人数 20 人

現在、千代田区内で特別支援教育補助員である現職者を対象に、全 10 コマから構成される特別支援教育支援員育成プログラムを実施する。講師は特別支援教育の専門である大妻女子大学教員、他大学教員、および千代田区特別支援教育担当教員が中心であり、講義や演習だけでなく実践的内容（ディスカッション・ケース検討など）も含むことにより、基礎的知識・技術と実践力を育成し、かつ現場での実践を深め、還元できる力を育成する。

#### ② 理科支援員育成プログラム 募集人数 10 人

小・中・高等学校教諭等の資格を持っている人々及び同等な経験を有して仕事を持たない人々を対象に、全 15 コマからなる理科支援員育成プログラムを実施する。講師は大妻女子大学教員及び千代田区立の理科担当小学校教員であり、講義や演習だけでなく実験・実習的研修も含むことにより、基礎的知識・技術と実践力を育成する。

#### ③ 野外活動支援員育成プログラム 募集人数 10 人

将来、教員免許や保育士資格を取得して現場に立つ学生を中心に、教育・保育活動時の野外活動における基礎知識や基礎技能を身に付ける研修を行う野外活動支

援員育成プログラムを実施する。講師は、大妻女子大学教員及び幼稚園での現場経験者であり、講義のみでなく実際に体験をする実習的研修も含む。

#### (4) 事業の期間

平成22年4月1日 ～ 平成23年3月31日

#### (5) 事業の実施日程

日程	事業の内容
4月1日	① 事務局の設置
5月初旬	② 各プログラムの研修内容と研修講師の決定
5月初旬	③ 野外活動 受講生の募集
5月中旬	④ 野外活動 受講生の決定
5月29日	⑤ 野外活動 講座開始
7月9日～ 7月22日	⑥ 理科 受講生の募集
7月下旬	⑦ 理科 受講生の決定
8月31日	⑧ 理科 講座開始
10月4日～ 10月15日	⑨ 特別支援 受講生の募集
10月中旬	⑩ 特別支援 受講生の決定
10月29日	⑪ 特別支援 講座開始
1月下旬～ 3月上旬	⑫ 各プログラム 講座終了
3月上旬	⑬ 受講生からのアンケート回収
3月13日	⑭ 評価委員会の開催（*東日本大震災のため中止）
3月31日	⑮ 事業終了日

### 3 事業の実施体制

#### (1) 事務局

本プログラムの運営、研修に必要な書類の作成及び管理、委員や講師研修員との連絡等を実際に行う組織として、大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター内に事務局を置く。

児童臨床研究センター所長（1名）、インテークワーカー（1名）、助手（1名）のほか、事務を取り扱う非常勤の専任スタッフ（1名）を配置する。

#### (2) 平成22年度 評価委員会

各年度に、本事業の運営・管理、プログラム内容、研修生の現場での貢献度など全体的な事業評価を実施する第三者組織として、他大学の関係者や現場の教員などからなる評価委員会を設置する。

NO	氏名	所属
1	中井清津子	滋賀大学教育学部附属幼稚園
2	中坪 史典	広島大学大学院教育学研究科 准教授
3	名越 利幸	岩手大学教育学部
4	角谷 重樹	国立教育政策研究所
5	大方 美香	大阪総合保育大学児童保育学部
6	高橋 昇	福島県私立原釜幼稚園

#### (3) 各プログラム担当

NO	プログラム	氏名
1	特別支援	柴崎 正行
2	理科	石井 雅幸
3	野外活動	柴崎 正行・川之上 豊・加藤 悦雄

(全て本学教員)

#### (4) 関連団体との連携状況

本委託事業は、千代田区教育委員会と連携を図りながら企画・運営をしている。千代田区教育委員会とは、次のような点で連携を図ることができた。

- (1) 千代田区教育委員会育成指導課課長・指導主事に、本プログラムの原案を練る際にご相談に乗っていただいたりと、相互協力体制を作った。
- (2) 受講者の募集において千代田区教育委員会に協力していただくことにより、地域の人々への情報発信の体制を作ることができた。
- (3) 特別支援教育支援員育成プログラムにおいては、千代田区立幼稚園・小学校での実践を講座内で紹介していただいた。
- (4) 理科支援員育成プログラムでは、千代田区立小学校での実践を講座内で紹介した。
- (5) 野外活動支援員育成プログラムでは、実際に千代田区立幼稚園での行事に参加させていただいた。

## 4 実施した事業内容

### <特別支援教育支援員育成プログラム>

回	講義日	時間	テーマ	内容	講師
1	10月29日(金)	18時～20時	「特別な支援」の必要な子どもとの信頼関係について	「特別な支援の必要な子ども」との間に信頼関係を形成していくためには、どのような配慮や工夫が必要になるのかについて、具体的に話し合います。	柴崎 正行 (大妻女子大学)
2	11月4日(木)	18時～20時	「特別な支援」の必要な子どもの理解について	「特別な支援の必要な子ども」を理解するためには、どのような見方が必要になるのかについて、具体的に話し合います。	野本 茂夫 (國學院大學幼児教育専門学校)
3	11月19日(金)	18時～20時	学習面での支援について	幼稚園や小学校の集団活動や学習面での支援をしていくときに、その子の状態に応じてどのような配慮や工夫が求められているのかについて、具体的に話し合います。	牧 真由美 (千代田区教育委員会)
4	11月26日(金)	18時～20時	基本的な生活習慣の支援について	幼稚園や小学校で生活面での支援をしていくときに、その子の状態に応じてどのような配慮や工夫が求められているのかについて、具体的に話し合います。	太田 俊己 (植草学園大学)
5	12月10日(金)	18時～20時	保護者の理解と支援について	幼稚園や小学校で「特別な支援の必要な子ども」の保護者を支援していくときに、どのようなことを理解し配慮していけばよいのか、具体的に話し合います。	富田 久枝 (千葉大学)
6	12月17日(金)	18時～20時	「支援員」に求められている役割について	幼稚園や小学校で担任を補助しながら「特別な支援」を行っている「支援員」とは、どのような立場や役割を求められているのかについて、具体的に話し合います。	田中 和彦 (所沢ひまわり幼稚園)
7	1月21日(金)	18時～20時	担任や専門家との協働的な関係づくりについて	クラス担任や巡回相談員、さらにはコーディネーターとの協働的な関係を形成するかかわり方について、具体的に話し合います。	秦野 悦子 (百合女子大学)
8	2月18日(金)	18時～20時	事例研究(幼児期)	幼稚園での支援員をしていて、問題や課題に直面していることについて、事例を持ち寄り具体的に検討してみます。	柴崎 正行 (大妻女子大学)
9	2月25日(金)	18時～20時	事例研究(児童期)	小学校での支援員をしていて、問題や課題に直面していることについて、事例を持ち寄り具体的に検討してみます。	高橋 ゆう子 (大妻女子大学)
10	3月4日(金)	18時～20時	まとめ	本講座から、さらに話したいことや聞きたいことについて自由に話していただきます。また、受講生の方から、次年度についての意見や要望についても聞かせたいと思っています。	柴崎 正行 (大妻女子大学) 牧 真由美 (千代田区教育委員会)

<理科支援員育成プログラム>

平成22年度 小学校理科研修プログラム

回	日時	テーマ	内容
1	8月20日(金) 16時から18時30分	現在の小学校理科カリキュラム と小学校理科授業について	現行の学習指導要領理科の内容 小学校理科の授業について
2	8月28日(土)	10月までの34年理科	3年 日なた 日かげ
3	10時から14時まで		3年 昆虫
4	9月4日(土)	10月までの56年理科	5年 受粉
5	17時30分から		5年 天気 流水
5	9月18日(土) 10時から 13時から	12月までの34年理科	3年 光、 4年 秋の生き物 水の三態
		12月までの56年理科	6年 月 6年 水溶液 土地
7	10月2日(土)	12月までの56年理科	5年 ものの溶け方
8	16時から		5年 ふりこ
9	10月10日(日)	野外での地学分野の観察1,2 56年理科	野外での実習
10	10時から14時		①地質に関する実習、②川原での 石や化石、③安全指導に関して
11	12月11日(土) 16時から	1, 2月 34年理科	3年 電気、磁石 4年 もののあたたまり方
12	12月12日(日)	3学期 56年理科	5年 電磁石
13	10時から・13時から		6年 電気の利用
14	12月19日(土)	1, 2月 34年理科	4年 温度とかさ
15	10時から・13時から		4年 星
16	1月9日(日) 14時から	3学期 56年理科	電気6年 6年 生き物と環境
17	1月23日(日)	1学期の理科	6年 物の燃え方 4年 電気
18	10時から・12時から		34年 生き物 5年のメダカ



< 野外活動支援員育成プログラム >

日程	行事名	行事内容	
5月29日(土)・30日(日)	野外実践講座 野外での活動と 宿泊活動の実践	川井キャンプ場(奥多摩町)での宿泊を通し、活動の体験を行う(受講生を教員が引率)	
9月6日(月)	野外遊び研修「幼児等の野外引率に関わる安全管理とリスクマネジメント」	野外活動での安全管理を実際の体験を通じ、野外活動の専門家からの講義においてその体験を深める(講師: 峯岩男)	
園・校名	日程	行事名	行事内容
麴町幼稚園	10月19日(火)	芋掘り遠足	さつまいも、里芋を掘る
千代田幼稚園	10月22日(金)	芋掘り	広い畑の気持ちよさ味わいながらさつまいも掘を楽しむ。土に触れて感触を十分に味わう。収穫までにお世話になった方々に感謝の気持ちを持つ。木の実や落ち葉などを見たり拾ったりして楽しむ。
麴町幼稚園	11月5日(金)	焼き芋パーティー	園庭に穴を掘り、集めた落ち葉や木々を燃やし焼き芋をします。
番町幼稚園	11月5日(金)	遠足(加納農園)	芋掘り
麴町幼稚園	11月10日(水)	ドキドキ探検	・ 警察の方からの安全指導 ・ 公園散策(木の実を探すなど) ・ 電車に乗って幼稚園に戻る
千代田幼稚園	2月18日(金)	砧公園	幼稚園のみんなで最後の遠足を楽しむ。広々とした自然の中で体を動かし、みんなで一緒にゲームをしたりして楽しむ。
麴町幼稚園	2月25日(金)	お別れ遠足(新宿御苑)	3, 4, 5歳の縦割り班で行動します。ウヒアハ(絵本: 11ぴきのねこより)からおやつを取り戻すため、問題を解いていきます。おやつは昼食時に5歳がグループのメンバー分を分けて、一緒に食べます。
番町幼稚園	3月1日(火)	お別れ遠足(井の頭文化園)	3学年で縦割りのグループを作り、グループ毎に動物を見たり、乗り物に乗ったりする。

## 5 受講者の評価

### (1) 特別支援教育支援員育成プログラム 【回答数 15 回答率 93.8%】

属性： 現職者：15名、男性1名・女性14名

質問内容	強く 思う	少し 思う	余り思 わない	全く思 わない	わから ない	回答 無し
◆今回の10回の講座に関して						
1 今回の講座では、特別支援教育に関する考え方や技能を知る上で役立った	9	6	-	-	-	-
2 今回の講座では、講義や演習を通して、保育現場や教育現場の実情を知ることができた	11	4	-	-	-	-
3 今回の講座では、特別支援を要する児童・幼児を援助する際の活動内容を知ることができた	8	7	-	-	-	-
4 この講座での教材資料提示は、授業の内容を理解するのに役立った	10	5	-	-	-	-
5 この講座での授業では、質問や意見を引き出し、受講者の積極的な参加を促した。	7	6	1	-	-	1
6 この講座での授業は講師の十分な準備と熱意をもって行われた	11	4	-	-	-	-
7 この講座での教室等の案内は、わかりやすいものであった	9	5	-	-	1	-
8 この講座の開講曜日や時間設定は適切であった	5	6	3	-	1	-
◆今後の特別支援教育支援員としての取り組みについて						
9 以前から、特別支援教育の専門性を深めたいという気持ちはあった	13	2	-	-	-	-
10 この講座を受けて、より特別支援教育に対する探究心が深まった	13	2	-	-	-	-
11 この講座を受けて、現場での特別支援教育の専門性を生かして行きたいという気持ちが強くなった	12	2	-	-	-	1
12 この講座を受けて、現場で行われている特別支援教育とのギャップを感じるようになった	6	5	4	-	-	-

質問内容	①	②	③	④	⑤	回答 無し
◆今回の10回の講座に関して						

16 あなたの現在のお仕事をお聞かせ下さい ①現職者（正規・非正規） <input type="checkbox"/> 子育て等により就業を中断したもの <input type="checkbox"/> ニート・フリーター <input type="checkbox"/> その他	16 非正規	-	-	-	-	-
17 あなたの年齢を教えてください ①20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> その他	5	3	3	4	1	-
18 本プログラムを何でお知りになりましたか <input type="checkbox"/> 学び直し HP <input type="checkbox"/> 千代田区報 <input type="checkbox"/> 新聞・雑誌等 <input type="checkbox"/> 教員・知人の紹介 <input type="checkbox"/> その他	-	1	1	8	5	-
19 本プログラムに応募してみようと思ったきっかけは <input type="checkbox"/> 再就職 <input type="checkbox"/> キャリアアップ <input type="checkbox"/> 自己啓発 <input type="checkbox"/> 家族・知人に勧められたから <input type="checkbox"/> その他	1	8	3	1	-	1
20 本プログラムをご友人やご親戚に勧めたいと思いますか <input type="checkbox"/> 思う <input type="checkbox"/> どちらとも言えない <input type="checkbox"/> 思わない	10	2	-	-	-	-
21 授業料が有料だったとしたら、受講料はどれくらいが妥当だと思いますか <input type="checkbox"/> 1000～2000 <input type="checkbox"/> 3,000 <input type="checkbox"/> 4,000～5,000 <input type="checkbox"/> 5,000～10,000 円 <input type="checkbox"/> 10,000～ <input type="checkbox"/> 無記入	3	1	2	-	-	-
22 受講料が有料の場合、受講していましたか？ <input type="checkbox"/> 受講していた <input type="checkbox"/> わからない <input type="checkbox"/> 受講していない <input type="checkbox"/> 受講料が( )円以下だったら受講していた <input type="checkbox"/> その他	6	5	3	-	-	1
23 講座終了後、受講認定証は必要ですか？ <input type="checkbox"/> 必要である <input type="checkbox"/> 必要でない <input type="checkbox"/> その他	8	2	3	-	-	2

### 今回、講座を受けて良かった点はどのようなところですか？（自由記述）

- ・ 支援員同士で話し合う機会は皆無だったので、大変良い機会だった。特別支援教育への思いを新たに。大変勉強になった。
- ・ 冨田先生のお話が強く印象に残りました。支援計画の立て方だけでなく、実際に ADHD 体験ができたことが本当にありがたかったです。特別支援に対する気持ちが変わる強烈な体験でした。
- ・ いろいろな先生方から専門的な事を具体的に教えていただく中で、自分の保育を振り返り考えることができた。グループの中での話し合いができたこと。
- ・ 他の方と情報交換ができた具体的な手立てのヒントになった。
- ・ 他の職場で働いている人たちの考え方などを知ることができて為になった。また様々な特別支援教育の捉え方、実践法を学べた。
- ・ 校種の違う幼と小の支援員、他校の支援員と話せて視野が広がった。併設の小学校に進級した要支援児の様子が聞いてよかった。

- ・ 前ははまだ特別支援教育にかかわっておらず、なかばお客様状態で受講していましたが、今回は現場に携わって3年目を迎えており、より現実味を帯びて聴講することができました
- ・ 現在自分が置かれている状況の中で、支援している子どもに対して最善の努力をすることが大事であること。
- ・ 2度目となりますので、講義内容は一度の時より理解できるものでした
- ・ 自分なりの経験でやっていた事が多かったのが、講座を受けてみて改めて再確認できたことがよかった。
- ・ 支援員は児童側に立って支援できるということ。児童の気持ちや考えを必要に応じて代弁することで、担任と児童との橋渡しができる。
- ・ ○という方法を講師、他の受講生から教えてもらえた点。支援のテクニックや考え方を改めて確認できた点
- ・ 特別支援教育について、支援法や現状もよく分かっていなかったのですが、この講座を受けて毎回発見が多く、多くのことを学べたこと
- ・ 毎回違う講師で、様々な視点から学ぶことができた

**今回、講座を受けてみて、あなたにとって課題となった点は良かった点はどのようなところですか？（自由記述）**

- ・ 自分の学校ではあまり支援員に情報が伝えられていない（障害名など）のを知り、ショックだった。今後は支援計画にも絡んで積極的に動きたい
- ・ 支援計画立案の必要性を感じました。
- ・ 具体的な支援方法について
- ・ 集団の中へ返す方法など
- ・ 自分がどれだけ特別支援教育に対して無知であったのかを知った。もっと色々な事を学ばないといけないと感じた。
- ・ 担任との連携、それにより子どもの実態の把握がずれ支援がずれ、苦しい一年となり、退職することになりました。もうやらないと思ったけれど、また少しやりたくなりました。
- ・ まだまだ技量不足だと痛感しました。もっと広い視野を持って子どもとその周囲を見て生きたいと思いました。
- ・ 支援の目標を1週間など区切りをつけて設定し、結果その支援が有効であったかをきちんと検証して、次の支援につなげていくことの重要性を認識した
- ・ 今回の講座で6年生の多動児童の支援について具体的なテクニックといったものを知りたかったのですが、それに関しては回答が得られませんでした。つまり6年生まで成長してしまうとむずかしいのか・・・と思われました。
- ・ 更なる児童理解、担任や専門機関との協議的な関係作り
- ・ いろいろなタイプの児童がいる中、固定観念をもたずに臨機応変に対応できるようにしなくてはならないと感じました
- ・ 自分の考えだけでなく、他の人の意見を聞くことが自分の役に立つ

今回の講座について感想、意見、今後に向けてなど、ご自由にご記入下さい（回数、期日、時間帯についてご意見をください）。（自由記述）

- ・ 前回の講座も勉強になりましたが、今回は子どもの見方や判断などとても参考になりました。
- ・ 特別支援教育に対する考えをまた新たにすることができました。ありがとうございました。
- ・ 非常勤の研修はなかなかないので、ぜひ今後も続けて欲しい
- ・ 本当にたくさんのことを学ばせていただき、力になりました。ありがとうございました。
- ・ 夜6時からという時間帯をもう少し早くしてほしいと思った。
- ・ 2月末からの3週連続、子どものいる身にはきつかったです。もっと早い時期に始めて2週に1回位だとありがたいです。10月にはもう悩み満載でした。
- ・ どの回も全て有意義なものでした。
- ・ 他校の支援員の具体的な事例をたくさん聞くことができ、これからの自分の支援の参考になりました
- ・ 事例をあげて皆で課題をとり、取り組み意見を言い合う時間を設けて欲しい
- ・ とても勉強になりました。ありがとうございました。もう数回程度回数を増やし、より専門的に他校の支援員の方々との意見交換ができたらと思っています。
- ・ 悩みを出すと、それに対して回答をいただけて非常に自分の方向付けに役立ちました
- ・ 時間がもう少し早く始まって欲しい

**（２） 理科支援員育成プログラム 【回答数 11 回答率 100%】**

属性： 現職者[5名]、男性：2名・女性：3名

学生 [6名]、女性5名

**<現職者用>**

質問内容	強く 思う	少し 思う	余り思 わない	全く思 わない	わから ない	回答 無し
◆今回の講座に関して						
1 理科は、得意な方だと思っている。	1	1	2	1	-	-
2 今回の講座では、小学校理科の授業に関する考え方や技能を知る上で役に立った。	4	1	-	-	-	-
3 今回の講座では、実験や観察を通して、小学校理科の授業を知ることができた	5	-	-	-	-	-
4 今回の講座では、野外での小学校理科の学習活動の内容を知ることができた。	2	1	1	-	-	1
5 この講座での教材資料提示は、授業の内容を理解するのに役立った。	3	2	-	-	-	-
6 この講座での授業では、質問や意見を引き出し、受講者の積極的な参加を促した。	4	1	-	-	-	-

7 この講座での授業は講師の十分な準備と熱意をもって行われた。	5	-	-	-	-	-
8 この講座での教室等の案内は、わかりやすいものであった。	3	2	-	-	-	-
<b>◆今後の理科支援員としての取り組みについて *学生用と異なる質問項目*</b>						
9 以前から、理科教育の専門性を深めたいという気持ちはあった。	3	1	1	-	-	-
10 この講座を受けて、より理科教育に対する探究心が深まった。	4	-	1	-	-	-
11 この講座を受けて、小学校現場での理科教育の専門性を生かして行きたいという気持ちが強くなった。	4	-	1	-	-	-
12 この講座を受けて、小学校現場で行われている理科教育とのギャップを感じるようになった。	2	1	2	-	-	-

質問内容	①	②	③	④	⑤	回答無し
◆今回の15回の講座に関して						
16 あなたの現在のお仕事をお聞かせ下さい □現職者(非正規はカッコ内数) □子育て等により就業を中断したもの □ニート・フリーター □その他	5 (1)	-	-	-	-	-
17 あなたの年齢を教えてください ①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑥その他	2	3	-	-	-	-
18 本プログラムを何でお知りになりましたか ①学び直し HP ②千代田区報 ③新聞・雑誌等 ④教員・知人の紹介 ⑤その他	1	-	-	3	1	-
19 本プログラムに応募してみようと思ったきっかけは ①再就職 ②キャリアアップ ③自己啓発 ④家族・知人に勧められたから ⑤その他	-	1	2	-	1	1
20 本プログラムをご友人やご親戚に勧めたいと思いますか ①思う ②どちらとも言えない ③思わない	4	1	-	-	-	-
21 授業料が有料だったとしたら、受講料はどれくらいが妥当だと思いますか ①1000~2000②3,000③4,000~5,000④5,000~10,000円⑤10,000~□無記入	1	2	-	-	-	2
22 受講料が有料の場合、受講していましたか? ①受講していた□わからない②受講していない	1	3	1	-	-	-

③受講料が( )円以下だったら受講していた□その他						
---------------------------	--	--	--	--	--	--

**今回、講座を受けて良かった点はどのようなところですか？（自由記述）**

- ・授業に生かすことができた
- ・理科の基礎を学べた
- ・講師の先生が受講者の質問に対して丁寧に答えてくれていた
- ・授業のポイントについて知ることができた
- 「月の動き」の回が特に良かった

**今回、講座を受けてみて、あなたにとって課題となった点は良かった点はどのようなところですか？（自由記述）**

- ・教材研究
- ・授業の導入や学校の周囲の環境の利用など
- ・教材研究をし、学習内容の理解を深める
- ・自分で内容をしっかり理解する

**今回の講座について感想、意見、今後に向けてなど、ご自由にご記入下さい（回数、期日、時間帯についてご意見をください）。（自由記述）**

- ・時間が許せば行きたい。授業案等あれば頂きたい
- ・とても充実した講座だった
- ・理科の面白さを知ることができてよかった

**<学生用>**

質問内容	強く 思う	少し 思う	余り思 わない	全く思 わない	わから ない	回答 無し
◆今回の講座に関して						
1、理科は、得意な方だと思っている。	0	1	4	1	-	-
2、今回の講座では、小学校理科の授業に関する考え方 や技能を知る上で役に立った。	5	1	-	-	-	-
3、今回の講座では、実験や観察を通して、小学校理科 の授業を知ることができた	4	2	-	-	-	-
4、今回の講座では、野外での小学校理科の学習活動の 内容を知ることができた。	3	2	-	-	1	-
5、この講座での教材資料提示は、授業の内容を理解す るのに役立った。	5	1	-	-	-	-

6、この講座での授業では、質問や意見を引き出し、受講者の積極的な参加を促した。	6	-	-	-	-	-
7、この講座での授業は講師の十分な準備と熱意をもって行われた。	5	-	-	-	-	1
8、この講座での教室等の案内は、わかりやすいものであった。	4	2	-	-	-	-
<b>◆今後の理科支援員としての取り組みについて * 現職者用と異なる質問項目 *</b>						
9、以前から、時間が取れば小学校現場に理科支援員として参加しようという気持ちはあった。	5	1	-	-	-	-
10、この講座を受けて、時間が取れば小学校現場に理科支援員として参加しようという気持ちが強くなった。	5	1	-	-	-	-
11、この講座を受けて、小学校現場に何らかの形で支援していこうという気持ちが強くなった。	5	1	-	-	-	-
12、この講座を受けて、小学校現場に入っていくことに不安を感じるようになった。	2	1	2	1	-	-

質問内容	①	②	③	④	⑤	回答無し
◆今回の15回の講座に関して						
16 あなたの現在のお仕事をお聞かせ下さい ①現職者（正規・非正規）②子育て等により就業を中断したもの ③ニート・フリーター ④その他	-	-	-	6 学生	-	-
17 あなたの年齢を教えてください ①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑥その他	6	-	-	-	-	-
18 本プログラムを何でお知りになりましたか ①学び直し HP ②千代田区報 ③新聞・雑誌等 ④教員・知人の紹介 ⑤その他	-	-	-	6	-	-
19 本プログラムに応募してみようと思ったきっかけは ①再就職 ②キャリアアップ ③自己啓発 ④家族・知人に勧められたから ⑤その他	-	3	1	-	2	-
20 本プログラムをご友人やご親戚に勧めたいと思いますか ①思う ②どちらとも言えない ③思わない	6	-	-	-	-	-
21 授業料が有料だったとしたら、受講料はどれくらいが妥当だと思いますか ①1000～2000②3,000③4,000～5,000④5,000～10,000	5	1	-	-	-	-



円⑤10,000～⑥無記入						
22 受講料が有料の場合、受講していましたか？ ①受講していた②わからない③受講していない ④受講料が( )円以下だったら受講していた⑤その他	2	-	3	-	-	1

**今回、講座を受けて良かった点はどのようなところですか？（自由記述）**

- ・ 実際の実験器具を使用しての講座だったので、授業での児童の視点や教師の声掛け・注意点を感じられた
- ・ 今の小学校現場での様子が分かった（アルコールランプではなくコンロが使われているなど）
- ・ 少人数であったため、質問もしやすく丁寧に受け応えしてくれるところ
- ・ 野外観察を実際に行き、観察する時のポイントがわかりました。
- ・ 講師の先生の丁寧な説明
- ・ 大変勉強になりました

**今回、講座を受けてみて、あなたにとって課題となった点は良かった点はどのようなところですか？（自由記述）**

- ・ 理科の基本的な知識を深めたい。児童がどのような部分に気になるのか予想できるように单元ごとの理解を深めたい。
- ・ 教科書や指導要領に書かれていることだけではなく、子どもたちが理解するために様々な教材を用意すること
- ・ もっと理科の教材を知っていく点
- ・ 今回は大人が対象だったので、大人向けの解説でしたが、今回学んだことを子どもに教えるときにどのような言葉に言い換えれば伝わるのかを考えるのが課題になりました。
- ・ 理科に限らず、子どもに指導するときには様々な知識が必要で、もっと幅広い教養を身に付けなくては、と感じた。
- ・ 理科の知識

**今回の講座について感想、意見、今後に向けてなど、ご自由にご記入下さい（回数、期日、時間帯についてご意見をください）。（自由記述）**

- ・ もっと回数を増やして欲しい。もっと学びたいと思った。
- ・ もっと開講してほしい。
- ・ とても良かった

(3) 野外活動支援育成プログラム 【回答数 10 回答率 100%】

属性: 学生 [10名]、女性 10名

質問内容	強く 思う	少し 思う	余り思 わない	全く思 わない	わから ない	回答 無し
◆今回の講座に関して						
1 野外活動は、得意な方だと思っている。	-	4	4	1	1	-
2 今回の講座では、野外活動に関する考え方や技能を知る上で役に立った。	7	3	-	-	-	-
3 今回の講座では、現場での指導者からの講義や現場での支援を通して、野外活動に必要な心構えを知ることができた	4	6	-	-	-	-
4 今回の講座では、野外活動の内容を知ることができた	4	6	-	-	-	-
5 この講座での教材資料提示は、授業の内容を理解するのに役立った	5	5	-	-	-	-
6 この講座での授業では、質問や意見を引き出し、受講者の積極的な参加を促した。	4	6	-	-	-	-
7 この講座での授業は講師の十分な準備と熱意をもって行われた	5	4	1	-	-	-
8 この講座での教室等の案内は、わかりやすいものであった	3	7	-	-	-	-
◆今後の野外活動支援員としての取り組みについて						
9 以前から、時間が取れば保育園・幼稚園・小学校現場に参加しようという気持ちはあった	6	4	-	-	-	-
10 この講座を受けて、時間が取れば保育園・幼稚園・小学校現場に野外活動支援員として参加しようという気持ちが強くなった	5	5	-	-	-	-
11 この講座を受けて、保育園・幼稚園・小学校現場に何らかの形で支援していこうという気持ちが強くなった	6	3	1	-	-	-
12 この講座を受けて、保育園・幼稚園・小学校現場に入っていくことに不安を感じるようになった。	-	5	5	-	-	-

質問内容	①	②	③	④	⑤	回答 無し
今回の15回の講座に関して						
16 あなたの現在のお仕事をお聞かせ下さい ①現職者(正規・非正規)□子育て等により就業を中断したもの □ニート・フリーター □その他	-	-	-	10 学生	-	-
17 あなたの年齢を教えてください 20代 □30代 □40代 □50代 □60代 その他	10	-	-	-	-	-
18 本プログラムを何でお知りになりましたか 学び直しHP □千代田区報 □新聞・雑誌等 教員・知人の紹介 □その他	1	-	-	9	-	-
19 本プログラムに応募してみようと思ったきっかけは ①再就職 □キャリアアップ □自己啓発 ④家族・知人に勧められたから □その他	-	4	5	-	-	-
20 本プログラムをご友人やご親戚に勧めたいと思いませんか □思う □どちらとも言えない □思わない	7	3	-	-	-	-
21 授業料が有料だったとしたら、受講料はどれくらいが妥当だと思いますか □1000～2000 □3,000 □4,000～5,000 □5,000～10,000 円 □10,000～ □無記入	4	2	-	3	-	1
22 受講料が有料の場合、受講していましたか？ □受講していた □わからない □受講していない □受講料が( )円以下だったら受講していた □その他	3	5	2	-	-	-
23 講座終了後、受講認定証は必要ですか？ □必要である □必要でない □その他	6	4				

### 今回、講座を受けて良かった点はどのようなところですか？（自由記述）

- ・ 野外活動での大変さを実感できたところ
- ・ 幼稚園の遠足ボランティアで子どもへの配慮や対応の仕方を学ぶことができた点
- ・ 普段子どもと関わる機会が少ないので、たくさん触れ合うことができてよかった
- ・ 講義、子どもがいるとして仮定して行う実技、実際に子どもと共に活動するという様々な形式で学べた点
- ・ 子どもたちと触れ合うことはもちろん、保育者の動きを近くで見ることができたこと
- ・ みんなで実際にキャンプをしたこと
- ・ 普段、野外活動をしないので、火起しや自然の遊びを知ることができたこと

- ・今まで授業で学んできたことを実際に生かすことができたこと、体験によって学ぶことができたこと
- ・キャンプを通して常に子どもがいることを前提とした活動で、普段気づかないことに気づくことができたこと
- ・現場の先生方、子ども達とのコミュニケーションがとれる大切な機会だったと思う

**今回、講座を受けてみて、あなたにとって課題となった点は良かった点はどのようなところですか？（自由記述）**

- ・もっと視野を広げること
- ・その場に応じた判断を考えることが課題
- ・子どもとの接し方などまだ固いので、もっと積極的に行動がしたい
- ・もっと視野を広くし、野外で起こる予想外のことに対応していく力をもっとつける点
- ・子どもたちへの気遣い
- ・時間配分がうまくできなかった点
- ・野外活動での応急などを学んでみたい
- ・学んだことをそのまま生かそうとしても、実践ではそんなに簡単に行かない点
- ・もっと積極的に動けるようになりたい
- ・その場その場での状況判断、行動力

**今回の講座について感想、意見、今後に向けてなど、ご自由にご記入下さい（回数、期日、時間帯についてご意見をください）。（自由記述）**

- ・授業の関係で1回しか参加できませんでした。できれば長期休暇や土日のボランティアがあれば参加したかった
- ・本当にこのような体験ができてよかった。今後もこのような活動に参加してみようという気持ちになった
- ・支援員の役割、行動について学ぶことができてよかった。今後の支援の有り方を考えるきっかけとなった。
- ・実際に現場に行かないとわからない雰囲気を感じることができてよかったです
- ・今回は講師と受講生とのキャンプだったが、子どもを交えての実践を取り入れたらもっと良いのでは
- ・もっと回数を増やして欲しい。より経験や知識をつみたい
- ・これからの実習などに生かしていきたい
- ・小学校にも行ってみたい
- ・自分のためにもなり、これからのためにもなり、参加して良かったと思います。

## 6 応募者・受講者

### <応募方法>

参加者の募集は、大妻女子大学の関係者と千代田区教育委員会の関係者を中心に募集をした。

大妻女子大学関係者への募集方法としては、大学のホームページで本講座の紹介をし、各プログラム担当が関係者への紹介を行った。

また、千代田区関係者への募集方法としては、千代田区の広報に募集を掲載したこと、千代田区立の幼稚園・小学校に募集要項と申込書を学校長宛に送付し、周知をしていただくことが主な募集方法であった。

アンケート結果にも示される通り、「教員・知人の紹介」により応募した人が多く、大学のホームページなどよりも、千代田区の教育関係者・学校へのピンポイントな周知の方法がより有効であると思われる。

また、実際に参加している人からの情報など、専門的つながりによって応募につながることもわかった。

### <応募者・受講者数>

	応募者数	受講者数
特別支援	16名	16名
理科	9名（学生5含む）	9名（学生5含む）
野外活動	10名	10名
合計	35名	35名

## 7 評価委員会による評価（外部評価）

平成23年3月13日（日）14:00より、平成22年度評価委員会を開催する予定であったが、11日に起きた東日本大震災により、急遽中止とした。それに際して、評価委員会6名に本プログラムの資料と解説を送付し、各委員より文書で評価をいただいた。

評価内容は以下の通りである。

### <事業の運営について>

- ・ 千代田区委託事業であることから、大学の使命でもある地域に開かれ、地域との連携や貢献ができる内容として大変望ましいことであり、現職教育や専門家の学び直しの機会として貴重な内容で全国のモデルになってほしい。
- ・ 特別支援教育は全国的にも加配教員や支援員によって支えられているのが現実である。アンケートにもあったように、非常勤の研修はあまりないのでこのようなプログラムは大変教育の推進の意味からも有効である。ただし、この研修を受けた支援員の方々が現場で生かされるようなコーディネーターや管理職の役割が大きい。

千代田区教育委員会で、そのこともおして現場に伝えていく必要があろう。

- ・ 講座開設の期間や時間については、短期集中型のように感じるがアンケートにも意見が出されているようにもう少し早い時期からはじめられるとよいのではないだろうか。
- ・ 調査をすると、必ず否定的な反応はあるものです。しかし、特別支援・理科・野外活動の調査結果は否定的なものはきわめて少なく、概ね、いい評価を得ていると思います。この事実から、これらの支援育成プログラムはすべて成功していると判断できます。
- ・ 第一印象として、千代田区と大妻女子大学が相互に連携し、「社会人の学び直し」「特別支援教育補助員や理科支援員の育成」の双方に資するプログラムを市民に向けて開講するという取り組みは、専門職育成、大学の地域貢献、研修機会の提供など、複数の側面を兼ね備えた画期的取り組みだと思いました。
- ・ 受講者アンケートの結果によると、「キャリアアップ」「自己啓発」を目的に受講される方が多く、そうした方々の多くが受講した講義内容に高い満足度を示していることは、受講者ニーズを踏まえてカリキュラムを設計された講師の方々のご努力、運営面における事務の方々のご努力のたまものであり、これまでの経験の中で、一定のシステムとして確立されつつあることが外部者にもよく分かりました。

#### <特別支援教育支援員育成プログラムについて>

- ・ 講座に関して、内容や講師陣の熱意などについて高い評価が得られていることからプログラムが現場のニーズにあったと思う。受講生の今後の取り組みや姿勢に変化をもたらすことが予想される。ただ現場で行われていることとのギャップを感じるのとアンケートから少し気にかかる。そのあたりの分析が必要ではないだろうか。
- ・ 大枠の中では、小学校と幼稚園の特別支援教育の内容に違いはないが、発達に依ると周りを取り巻く集団や学習方法に違いがある。そのことを意識して、事例研究は幼児編と児童編に分かれている点は望ましいと思う。必要に応じて、講義内容にも幼児と児童期の違いが組み込まれることが必要であると思う。
- ・ アンケートから特別支援教育に対する理解不足、支援のずれなど支援員さんの日々のご苦勞が伺える。このことは全国の現場の悩みでもあると思う。この事業をとおして、特別支援教育の支援員養成のプログラムの開発に繋がるとよいと思う。
- ・ 受講者アンケートの自由記述にある「非常勤の研修はなかなかないので、是非今後も続けてほしい」という意見が印象的であり、このプログラムの役割の重要性が理解できます。特に、特別支援教育補助員育成プログラムにおいては、そのニーズが益々高まる一方で、非常勤支援員への研修の機会が乏しいことを踏まえると、極めて重要なプログラムであると思われます。
- ・ 講義の内容・方法についても、プログラムの蓄積とともに工夫・改善の足跡が垣間見られ、講師の方々のご努力に敬意を表します。例えば、『平成 21 年度成果報告書』では、受講者

アンケートの自由記述の中に、「グループ内での検討があれば、面白かったかなと思った」「もう少し実技（体験）があると良かったと思います」などの意見が見られましたが、平成 22 年度の「受講者アンケート結果」では、「グループの中で話し合いができたことが良かった」「他の方と情報交換ができて具体的な手立てのヒントになった」などの意見が見られたことは、これらを反映していると思います。このことは一方で、「キャリアアップ」「自己啓発」を目的とする受講者は、講師の一方的な講義・講話形態だけでなく、アクティヴ・ラーニングに基づいて受講生同士が共に考えあい、学びあいたいというニーズを有しているのだと感じました。

- ・他方、受講生の応募方法については、難しい側面があるように感じました。例えば、『平成 21 年度成果報告書』では、3 年間の募集人数が 30 人に設定されているのに対して、平成 22 年度では、募集人数が 20 人に設定されている点について、背景や理由を承知していませんが、実際には、本プログラムに対する潜在的な受講ニーズはもっと高いように思います。特に、千代田区以外の方にも広く参加して頂けると良いように感じました（もちろん、受講生が多くなると、講義の質保障に困難が生じかねないので、多ければ良いという意味ではありません）。
- ・『平成 21 年度成果報告書』（28 頁）にある受講生アンケート調査の質問内容（12）「この講座を受けて、現場に入っていくことに不安を感じるようになった」、平成 22 年度の「受講者アンケート結果」の質問内容（12）「この講座を受けて、現場で行われている特別支援教育とのギャップを感じるようになった」の調査結果について、どのような解釈が可能なのが少し気になりました。

#### <理科支援員育成プログラムについて>

- ・貴大学のホームページでも拝見したところ、自然体験の様子、授業風景などがありました。少ない教員数で、いろいろな事業をよくやっておられると感服しました。とりわけ、理科関係の事業は通常数名の教員で行っているものを 1 名で行い、高い評価を得ていることに驚きました。  
このような先生方のご努力が学生の教育にプラスになっていると思います。
- ・このような取り組みは、全国でも珍しく、企画・運営も十分評価できるものであります。いただいた資料によると、小学校教員が苦手とする領域に配慮された内容となっていることも良く考えられています。
- ・各項目とも、単なる HOW TO 教材ではなく、基礎科学をきちんと押さえた教材となっていることも評価できる点です。このような取り組みが、今後継続していくことを祈念致します。
- ・私も、千代田区立九段中学校の教務主任（理科）でしたので、懐かしく感じました。今後、何

かお手伝いできることがあれば、お声かけ下さい。

<野外活動支援員育成プログラムについて>

- ・受講生の意欲を育む講座である。
- ・本プログラムをさらに周知する方法を考慮する必要があるのではないか。
- ・受講料が有料でも、意欲のある受講生が集まると思われるので、実費負担程度でもかまわないように思われる。
- ・実際に幼児とふれあうプログラムが多いので、受講生が幼児とふれあいながら学ぶ機会が得られ、現場の雰囲気を感じる機会となっている。
- ・時間の制約もあるが、幼児と一緒に野外活動をする機会を増やすことで、受講者にとって課題を見つけやすいと思われる。
- ・野外活動の楽しさを受講者自身が感じられるようなプログラムになっている。

## **8** 本事業のまとめ（内部評価）

### **（1）特別支援教育支援員育成プログラム**

<参加者の募集方法について>

- ・今年度は募集時期が7月頃と遅かったので、もう少し早くする必要がある。
- ・年間計画の中に研修を組みたいという希望もあるので、千代田学として採用が決定したら4月中に各学校・園を通してすぐに募集をした方がよい。
- ・今回は教育委員会を経て募集したが、直接園や学校に募集した方が早いし手間が省ける。この点については、千代田区教育委員会とも共通理解しておく必要がある。

<参加者の参加人数について>

- ・今回は20名定員のところ14名だったので、話しやすくて丁度よかった。
- ・小学校と幼稚園では話し合う内容に少し違いがあるので、グループに分けて募集するのも良いのでは。例えば、幼稚園が6名、小学校が14名位が良いのでは。
- ・今年参加した人たちの多くが、来年度も参加したがつている。これを加味した参加者募集にする必要がある。初級、中級というように。

<育成プログラムの内容について>

- ・支援員の方の中には、初めて発達障害児について学んだ人もいる。その点では、知識差や経験差が大きい人たちである。それを前提にした内容にしておく必要がある。
- ・今回の講座では講義を聴くことが多く、話し合いや意見の交流はさほど多くなかった。この点については参加者からも、もっとたくさん話し合いや意見の交流がしたかったという



感想が多く寄せられていた。

- ・とくに幼稚園と小学校とでは内容も少し違うので、グループ別の交流があると良かったという声が多く聞かれた。

<育成プログラムの講師について>

- ・担任との連携や保護者との連携について語ってくれた講師の方とはもっと話したかったという声が多かった。
- ・講師が毎回変わるのでなく、数回連続して話せると内容が深まるのではという声が多かった。

<育成プログラムの実施時期と時間について>

- ・できれば5月頃から月一回のペースで10回してもらえるといいという声が多かった。
- ・時間は今回の金曜日の夜でもよいという声が多かったが、土曜日の午後でもよいのではという声や夏休みに集中しても良いという声も寄せられた。

<千代田区との連携について>

- ・千代田区の現状について話を聞いてもらえてよかったという声が多かった。
- ・千代田区の現場の担任の先生ともっと話したかったという声が多かった。

## (2) 理科支援員育成プログラム

<ねらいにもとづく企画について>

保育士や幼稚園教諭、小中学校教諭、家庭科教諭等の免許状を持つ人及び同等の経験を有している人を対象に、大妻女子大学と千代田区教育委員会とが連携して、小学校で教員の苦手意識が強い理科教育の支援プログラムとして、理科支援員養成と小学校教員対象の理科研修を同時に実施していく。(22年度 受講生募集要項の主旨から)

千代田区内の小学校は、若手教員が増加している。また、現職の教員の中にも理科に苦手意識が強い。以上のような学校現場のニーズに基づいた研修会を企画した。また、理科支援員養成に関しては、千代田区が理科支援員を学校現場に配置する限りは養成を行う必要があると考え、理科支援員養成研修を企画した。さらに、19年度から行ってきた理科支援員養成研修においては、現職教員も参加しての研修が行われてきていた。その際に、現職教員と理科支援員を希望する人と合同で研修することにより、理科支援員を希望する方が学校現場を知る良い機会となるだけでなく、学校現場の教員も理科支援員をいかに学校現場で働いていただくかを考えるよい機会となっていた。そこで、今年度は、本趣旨に従って研修員の募集を行い、研修の企画を行うことにした。

<日程の組み方>

今回の研修においては、千代田区で採用している理科の教科書の年間指導計画に従って、授業実施2から3か月後の内容を行うように研修計画を組んだ。また、現職教員に関しては、研修員が希望する研修内容を選択的に研修を受けることができるようにした。ただし、理科支援員養

成として研修に参加した学生に関しては、全研修に参加することにした。

#### <事業内容>

理科支援員を将来希望する方(22年度は学生のみ)と小学校教員を対象にした研修会であるが、現職教員の研修を優先して、研修内容を計画した。具体的には、平成22年理科研修プログラムに載せたように計画した。この計画では、前述したように各小学校の授業内容を先取りする形で企画をしている。そこで、研修開始の小学校夏季休業期間には、小学校の9月～10月頃の学習内容に関する研修を行うようにした。また、それ以後の研修会は、各小学校の学習内容を2から3ヶ月先取りして行うようにした。そこで、活動計画表のように、開催日時とともに、開催内容並びにその内容が各小学校のいつごろ授業実施となるかを併記するようにした。また、本研修会の後半は、次年度の1学期の学習内容を扱うようにし、次年度の1学期の学習内容に対応できるようにした。このことにより、全18回で小学校の理科の学習内容のおおよそを網羅できるようにした。

実際に研修会を実施したところ、研修時間内に予定したすべての内容を終わらせることは厳しかった。また、ここであげた内容も、小学校理科の学習内容のすべてを完全に網羅したものではなく、その一部になっている。本研修であげた内容は、計画をした石井が、経験的に教師自身がつまづきやすいものを優先している。調査したところでは、小学校で行っている観察・実験は150ほどあり、そのすべてを取り上げていくことは不可能である。そこで、その一部を取り上げた。しかし、時間内にあげたものすべてを丁寧に扱うことも難しかった。

### 平成22年度 小学校理科研修プログラム

回	日時	テーマ	内容
1	8月20日(金) 16時から18時30分	現在の小学校理科カリキュラムと小学校理科授業について	現行の学習指導要領理科の内容 小学校理科の授業について
2 3	8月28日(土) 10時から14時まで	10月までの34年理科	3年 日なた 日かげ 3年 昆虫
4 5	9月4日(土) 17時30分から	10月までの56年理科	5年 受粉 5年 天気 流水
5 6	9月18日(土) 10時から 13時から	12月までの34年理科	3年 光、 4年 秋の生き物 水の三態
		<b>12月までの56年理科</b>	6年 月 6年 水溶液 土地
7 8	10月2日(土) 16時から	12月までの56年理科	5年 ものの溶け方 5年 ふりこ
9 10	10月10日(日) 10時から14時	野外での地学分野の観察1,2 56年理科	野外での実習 ①地質に関する実習、②川原での石や化石、③安全指導に関して
11	12月11日(土) 16時から	1, 2月34年理科	3年 電気、磁石 4年 もののあたたまり方
12 13	12月12日(日) 10時から・13時から	3学期56年理科	5年 電磁石 6年 電気の利用
14 15	12月19日(土) 10時から・13時から	1, 2月34年理科	4年 温度とかさ 4年 星
16	1月9日(日) 14時から	3学期56年理科	電気6年 6年 生き物と環境
17 18	1月23日(日) 10時から・12時から	1学期の理科	6年 物の燃え方 4年 電気 34年 生き物 5年のメダカ

研修の中身としては、観察・実験の技能が中心であるが、以下の点を考慮して研修を行った。

1. 取り上げた観察・実験を行う意味を子どもが主体的に問題解決を行う上で、子どもが、子ども自身のどのような考えを確かめるために行うのかを明らかにする。
2. この観察・実験を行う中でどのような技能を子どもが獲得していくのか。
3. 観察・実験の手順で操作を行っていく。
4. 安全上の配慮点を熟知してもらうように、実習を交えながら行っていく。

これだけの内容をそれぞれの観察・実験で操作を行いながら行っていったので、多くの時間を必要とした。今後時間の取り方、内容の精選を検討していく必要がある。

安全指導上指導を必要とする研修は、多くの時間を割いて行う必要がある。

#### <場所、設備>

10月10日に実施を予定していた野外での活動を除いて、すべての回を、本学の理科準備室代わりに使っている部屋にて行った。毎回、少人数であったのでこの教室で十分であったが、今後人数が増えた場合には検討が必要である。今後を考えると、千代田区内の小学校理科室を活用していきたい。しかし、土日祝日の開催となると、その学校の職員に迷惑をかけることになる。

### <その他>

学生は、それなりの数を集めることができた。しかし、現職の教員は参加が少なく、とても残念だった。23年度に実施できるのならば早い時期から千代田区教育委員会を通して小学校に声をかけていくと共に、都内全域から声をかけていくのも方法と考える。今後を考えると、東京都教職員研修センターなどの公的な教員研修センターと連携した研修システムの構築も視野に入れていく必要がある。

千代田学と言いながらも、千代田区の教育の質を上げることは全都の教育の質を上げる必要がある。地域貢献をも視野に入れながら本学ができる範囲、できる内容から積極的な検討が求められる。

### <総括>

理科研修を企画した立場から評価委員、受講者のアンケートから言っても内容、時期、おおむねよかったと考える。しかし、反応がよい割には受講希望者が少なく、募集方法、設定時期、時間帯など検討がもとめられる。22年度は募集の方法に問題があったと考えられる。次年度も実施の場合には、募集方法を工夫して取り組んでいきたい。また、研修に取り上げる内容を精選していく必要がある。

### <今後の可能性>

小学校理科教育が抱える課題をもとに、□理科支援員の将来性、□小学校理科の現状の2点から今後の研修のあり方の検討をしていきたい。

#### 1. 理科支援員の将来

平成21年度末に行われた政府の事業仕分けの対象としてあがった「小学校理科支援員」であるが、小学校現場の実状を考えると必要不可欠であると言える。そこで、学校設置者である各区市の教育委員会は独自の予算を立てて理科支援員の配置を細々ながら続けようとしている。また、地元の千代田区が継続をしている限りは、本学として継続して理科支援員の養成講座を継続していくことが求められると考える。千代田区教育委員会は、現在もこれからも含めて、理科支援員の配置を本学にゆだねてきている。そのことを踏まえても、本学が地域の千代田区にはたす大切な役割の一つと認識できる。また、小学校教員を目指す本学科の学生にとっても理科が得意な小学校教員として卒業できることは大きな意味をもつと考える。

#### 2. 小学校理科の現状

前述してきたように、小学校現場は若手教員が増加している。その点は大きな意味をもっていると言える。しかし、この若得手の多くが理科を苦手としているという事実もある。そこで、学校現場としては、若手教員をはじめとする理科苦手教員の研修の場をつくることは求められている。東京都教員研修センターでは、石井と協議しながら理科苦手教員対象の研修会を開催してきている。そこでも多くの内容をこなしてきている。また、この研修会の参加率も、参加者の反応もよい状況である。しかし、この研修会の数の限度や勤務時間内に行うことの課題もある。そこで、本学が今回行った土日や祝日を使っての研修のあり方も一つ

の方法であると言える。

東京都教職員研修センターの実例を見ても、小学校教員を対象とした理科の授業内容に迫る研修のニーズは高いと言える。そこで、本学としてもできる範囲の中で地元の小学校教育への貢献と言った観点からも研修のあり方を含めた研究とその研究成果を踏まえて研修会の実施が求められる。

参考までに、東京都教職員研修センターの研修内容をあげる。

東京都教職員研修センター 小学校理科研修会内容		
時間	テーマ	内容
1回目 3時間	1 小学校理科の授業について 2 理科における安全指導に関する理解	○問題解決活動について ○理科室で気をつけること ○火の扱い方(加熱器具) ○実験器具の使い方 ○危険な薬品の取り扱い ○水溶液をつくる
2回目 3時間	1 「生命・地球」に関する観察・実験の基礎Ⅰ	○生き物の観察 ○顕微鏡の種類と扱い方 ○ルーペの扱い方 ○デンプン等の観察 ○だ液の実験
3回目 3時間	1 「生命・地球」に関する観察・実験の基礎Ⅱ	○太陽の観察 ○月の観察 ○月の満ち欠けのシミュレーション ○粒度 ○椀かけ法
4回目 3時間	1 「エネルギー・粒子」に関する観察・実験の基礎Ⅰ	○ものの燃焼に関わる実験 ○てこや振り子に関する実験 ○水溶液に関する実験 ○物の溶け方に関する実験 ○ものの温まり方に関する実験
5回目 3時間	1 「エネルギー・粒子」に関する観察・実験の基礎Ⅱ	○永久磁石について ○電磁石について ○乾電池について ○発電と電気をためる

平成 22 年度東京都教職員研修センター C 研修会 内容より

### (3) 野外活動支援員育成プログラム

<参加者の募集方法について>

- ・今回は募集期間が少なくてワークショップの学生を中心にしたが、児童学科の学生全体から募集した方がよい。
- ・児童学科の学生以外でも、ライフデザイン学科や食物学科の学生で、野外活動の体験がある学生についても募集しても良いのではないかと。

<参加者の参加人数について>

- ・今回は13名であったが、千代田区からの要請する人数はこの倍以上だったので、増やす必要がある。
- ・来年度はできれば30名程度の学生を要請する必要がある。

<育成プログラムの内容について>

- ・キャンプや野外遊びは好評であったが、遠足や校外学習についての学びが少なかった。
- ・今年度は育成プログラムを体系的にできなかったが、来年度は1年間の体系化をしたい。
- ・できれば実際に幼稚園や小学校での実習も行ってみたい。

<育成プログラムの講師について>

- ・キャンプの時に講師陣といろいろ話せたのは好評であった。
- ・幼稚園の先生とは話せたが、小学校の先生と話す機会がなかったので増やすべきである。
- ・ライフデザイン学科とはキャンプについて、食物学科とは野外調理について連携ができるし幅広くなる。

<育成プログラムの実施時期と時間について>

- ・5月頃から前期を育成機関、後期を実践期間として体系的に実施していくことが必要。
- ・後期の実践期間では実践した後に反省会を設けて、振り返りをしていく必要がある。

<千代田区との連携について>

- ・野外活動支援員の派遣を希望する園や学校からはできるだけ早く予定したいという声が多いので、7月や夏休みから派遣できるように実践育成講座を組む必要がある。

## 12 おわりに

本委託事業もなんとか1年間を終えることができました。

特別支援教育支援員や理科支援員の育成プログラムの受講生は、とても熱心に取り組んでいました。講座の中でも質問などもよくしてくれていましたし、講座が終わっても講師を囲んで話をしたりと、その学びを大いに深めていました。本講座を実施した意義があると実感しています。

この間、千代田区教育委員会の関係者の方々には、受講者の募集はもちろんのこと、講師をお引き受けいただいたり、学校・教室を利用させていただきなど、様々な点で協力そして支援をいただいたことを感謝申し上げます。この委託事業が契機となって、本学と千代田区との連携が今後とも継続・発展していくことを心より願っております。

また、大学の事務局関係者の皆様方には、千代田区とのパイプ役になっていただき、事務処理等の書類の作成ではいつも支えていただきましたこと感謝しております。

最後に、あわてものの所長を支えて、しっかりと運営をしてくださった児童臨床研究センターのスタッフの坪井さん・平野さん、そしてアルバイトの鈴木さんの仕事ぶりには、いつも感謝をしていました。本当にありがとうございました。

本事業は、こうした多数の方々のお力添えにより、無事1年目を終了することができたのです。本委託事業のささやかな試みが契機となって生かされて、日本全国へと支援員の育成の輪が広がっていくことを期待しております。

平成23年3月末日

大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター

所長 柴崎 正行

平成 22 年度  
千代田区委託 千代田学  
「千代田区における教育支援員の育成に関する実践研究」  
委託業務成果報告書

平成 23 年 3 月 31 日発行

発行者： 大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター  
〒102-8357 東京都千代田区三番町 12  
TEL: 03-5275-6129 FAX: 03-5275-5252